

学生と地域をつなげよう！

私たちが目指す関のまちづくりの宣言文

私たちの目指す姿は、

「学生と地域がお互いを必要とする場がある」という関市です。

そのために、「ボランティア活動をしたい大学生と地域が繋がっていない」

という課題に取り組むことにしました。

課題の原因は「地域が何をやっているか知らない、大学生が参加したいボランティ

ア活動がない、ボランティア活動に参加するメリットが明確でない」ですが、

今回は特に

「学生が参加したいボランティア活動がない」に対して取り組みます。

これを解決するために、行政、企業、市民活動などの他組織の活動を踏まえ、

私たちは「当事者の大学生がいる」という強みを生かし

「プロジェクト型ボランティア」事業をすることで、関市の課題解決にもっとも貢献

することができると思っています。

だから私たちは「プロジェクト型ボランティア」をすることで、

「学生と地域がお互いを必要とする場がある」という関市を実現します。

## I 取り組んだ課題

ボランティア活動をしたい学生と地域が繋がっていない

### 【その理由と根拠】

このテーマにおける課題の原因は何か、担当課を交えながら、部会メンバーで議論しました。部会メンバーには、大学生がいることから、現在の学生のボランティア状況や、なぜ学生が地域のボランティアに参加できていないのかについて、課題を考案しました。

#### 1. 地域が何をやっているか知らない

関市内には3つの大学・専門学校があります。しかしいずれも専門性のある大学で、授業や日常生活で大学生は日々忙しい状態です。そのため、関市に在学していても、近隣の地域では何が行われているかが知られていません。また、地域と人々としても、若者の力を必要とするボランティア活動や、地域活動がありますが、両者がつながっている状態ではありません。

#### 2. 大学生が参加したいボランティア活動がない

大学生の中でも、地域のボランティア活動に参加したいと考える人は多くいます。しかし、時間的に制限があること、人足的なボランティア募集が多いこと、情報を得る場所が無いことなどから、大学生が参加したいボランティア活動が無い状態です。

#### 3. ボランティア活動に参加するメリットが明確でない

大学生は、自身の将来に活かすためにボランティア活動を経験したいと考えています。しかし、「将来に活かす」ことを考える大学生にとって、本当にボランティア活動に参加することが有効なのか、またどんなボランティアに参加することが良いのかが分からない人もいると考えられます。

今回は、「大学生が参加したいボランティア活動がない」ことに対して、取り組むことにしました。

### Ⅱ 取り組んだ活動

#### ①「行政・企業へのヒアリング」の実施

学生にとって、ボランティア活動に参加することは果たして自身の将来の役に立つのかということは、とても気になる点です。

今回は、関市市役所、福田刃物工業株式会社へ大学生がヒアリングを実施しました。

※ヒアリング内容は、必ずしも就職に有利になるとは限らないことを承知の上で実施しています。

#### 回答方法

◎関市市役所…紙面での回答

◎福田刃物工業株式会社…大学生が会社へ訪問

日時：平成30年6月14日（木）14時～14時30分

開催場所：福田刃物工業株式会社

参加者：3名

#### ②プロジェクト型ボランティア

#### 「子どもミュージアム商店街 in 本町通り商店街」へのボランティア参加

ボランティア活動に企画段階から大学生が関わることで、大学生が求める社会経験を培えると考え、7月に開催された「子どもミュージアム商店街」の企画から実施まで学生に関わっていただきました。

日時：平成30年7月14日（土）（企画段階の6月から大学生が参画しました。）

開催場所：本町プラッツ集合、本町商店街内の商店12店舗

内容：本企画は小学生を対象に、本町通りの商店街12店舗のお仕事をハローワーク形式で体験してもらう企画です。昨年の第5期まちづくり市民会議から採択された事業で、今年は商店街連盟を運営主体として、大学生には店舗ごとの企画内容の考案や、事前に店舗へ足を運び、ヒアリングを実施しました。

参加大学生：企画…10名、当日…2名（※雨天により延期したため、参加人数が減少。）

## チーム「関フレンズ」



(左) 企業ヒアリングの様子



(右) 子どもミュージアム商店街企画準備の様子



(上) 子どもミュージアム商店街実施の様子

## Ⅲ 実施結果

・行政・企業へのヒアリング結果

### 行政からの回答

1	「ボランティア活動に参加すると就職に有利」だと考えられますが、この考えに対して、どのように思われますか。
	有利である ・ 有利でない ・ <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">内容による</span>
2	どのようなボランティア活動であれば、採用したいと考えますか。
	“〇〇ボランティア活動を行っていた”という実績ではなく、その活動の具体的な内容や密度を評価すべきものと考えます。 どのような考えでどんなふうに取り組んできたかなど取り組む姿勢を感じることが出来るものであることが大切だと考えます。
3	どんな学生に貴社/貴庁で働いてほしいですか。
	人との関わりや学ぶ姿勢を大切に、何事にも積極的にチャレンジできる方。
4	ボランティアに限らず、学生のうちにどんな課外活動をしておくべきと考えますか。
	各種クラブ活動、学校内外のイベント・行事、国内外への旅など、学生だからこそできる経験が、社会人になって活かされることも多くあります。問3の人材像について言えば、こういった活動を主体的かつ積極的に取り組むことが大切だと考えます。

### 企業からの回答

1	「ボランティア活動に参加すると就職に有利」だと考えられますが、この考えに対して、どのように思われますか。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ かならずしもあるなしは関係ない。</li> <li>・ 直接的には有利ではないが、アピールポイントとなり、経験値として身に付く。</li> <li>・ ボランティアをやり過ぎて学問がおろそかになるのもいけないのでバランスが大切。</li> <li>・ バイト、サークル、ボランティアそして学問をバランスよく取っていく。</li> </ul>
2	どのようなボランティア活動であれば、採用したいと考えますか。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ その仕事に対する熱意を知るために経験を積む。</li> <li>・ 経験がコミュニケーションに生きてくる</li> <li>・ 大学の専攻が違っても何がしたいかがハッキリしているか。そのしたい事と企業がマッチすれば。</li> <li>・ 企業はその企業にない部分を補うために採用をしている。</li> </ul>

## チーム「関フレンズ」

3	<p>どんな学生に貴社/貴庁で働いてほしいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・与えられるよりもまずは自分から行動していく事が大切。</li> <li>・人付き合いの上手さや性格と仕事の特性を見ている。</li> <li>・コミュニケーションを作るには、色々なものに興味を持つ。趣味を持つ。 ＝仕事へ繋げる、仲間をつくるきっかけになる。没頭することでストレス発散になる。</li> </ul>
4	<p>ボランティアに限らず、学生のうちにどんな課外活動をやっておくべきと考えますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学問第一。学べるのは今しかない。</li> <li>・じっくり考える時間も今しかない。</li> <li>・自分に気付くために経験を積むことが大事。</li> <li>・自信をつける、経験値を上げる為にボランティアに参加する。</li> <li>・人とのつながりを大切にすることに自分で気付けるか？</li> <li>・自分と向き合うか逃げるか？ ＝他人に指摘してもらうためにコミュニケーションは大切</li> <li>・つたえ方、能力の活かし方、仕事とプライベートの切替。</li> <li>・どんな仕事でも話す（コミュニケーション）ことは大事である。 →ボランティアにチャレンジして人の輪を広げて欲しい</li> </ul>

・プロジェクト型ボランティアに参加した学生の声

紙媒体よりも声掛けの方が参加しやすい。

責任感を持って活動が出来た。

商店街と学生を繋ぐきっかけになった。

アルバイトでは味わえない経験ができた。

また参加したい（多数より）

### IV その成果と見えてきた課題

#### 《成果》

- ①企業・市役所へのヒアリングでは、ボランティアに参加することは、あくまでも参加したことが評価されるのではなく、
- ・内容重視（どのように関わったのか）
  - ・新しい人脈をつくるきっかけになる
  - ・人とのかかわりを持ち自分を知る
  - ・経験がコミュニケーションのきっかけ
  - ・仲間を作るきっかけになる
  - ・企画モノであればグループワークに役に立つ
- という、上記の理由から社会で役に立つという回答を頂きました。
- ②プロジェクト型ボランティアに参画した大学生からは、「また参加したい」との声を多く頂きました。人足的なボランティア活動では得られないような経験や、責任感を持って活動できたこと、またボランティアをきっかけに地域の人々と繋がる事が出来たことも、アルバイトでは味わえない経験を得ることにつながりました。
- また、今回は市民会議のメンバーである大学生がゼミや授業で直接声をかけたことにより、参加人数を多く募ることができ、紙媒体よりも声かけの方が参加しやすいという結果が得られました。

#### 《課題》

##### ①学生と地域を結ぶネットワークの必要性

今回は直接の声かけにより学生を多く集めることが出来ましたが、毎度のボランティア募集では知人への声かけだけでは、限度があります。また、地域としても、ボランティアを募りたくても、どこへ声を掛ければよいのかが分からなければ、学生と地域がつながることが出来ません。大学の中では、特定のボランティア活動を行う団体が多くあります。これら団体と地域が日々つながっているネットワークの存在が必要であると考えます。

##### ②プロジェクト型ボランティアづくりの必要性

今回の事業では、大学生にとっても満足度の高い結果となりました。企画段階から関わり、地域とのつながりが生まれる活動へのニーズがあると考えられます。しかし、実際に地域で必要とされているボランティアは、当日の人足的なボランティア募集が多くみられます。ボランティアを必要とする地域団体に対して、プロジェクト型ボランティアとして企画・運営をアドバイスできるコーディネーターが必要であると考えます。

### V 提案と提案理由

<b>提案 1</b>	ボランティアネットワークを行政が音頭をとって作ってください。
<b>提案する課</b>	市民協働課
<b>概要</b>	大学内にはボランティア活動を行う団体がいくつかあります。これらの団体と、ボランティアを必要とする地域へ呼びかけていただき、両者をつなぐネットワークの立ち上げを主導して行ってください。

<b>提案 2</b>	ボランティア受け入れ側への研修や、コーディネートを行ってください。
<b>提案する課</b>	市民協働課
<b>概要</b>	ボランティアや大学生の協力を必要とする地域団体（受入側）に対して、プロジェクト型ボランティアとして募集できるように、指導してください。大学生との窓口は提案 1 のネットワークからつなぎたいと考えます。地域団体独自でボランティア募集をかける前に、ボランティア内容、目的、期間、募集人数、参加方法、得られる経験などをきちんと明確にし、大学生にとって参加したいと思えるボランティア募集内容作りへのアドバイスをネットワークに参加した地域団体へ行ってください。

<b>提案 3</b>	関市内のボランティア参加者へ「しあわせ循環ポイント」を付与してください。
<b>提案する課</b>	商工課
<b>概要</b>	関市のボランティア活動に参加したことをカタチとして残すために、ボランティア活動に参加した学生に「しあわせ循環ポイント」を付与してください。

<b>提案の理由</b>	1. 学生の中ではボランティアをする団体がいくつかあります。しかし、地域と関わるボランティアとは必ずしもつながっておらず、地域と学生がつながっているとは言えません。ボランティアを必要とする地域と学生をつなぐコーディネートとして、ネットワークの立ち上げを主導して作ってください。ボランティア募集は現在大学を通じて、ボランティア掲示板に張り出されて募集されます。それではなかなか情報が学生に伝わりません。学生がボランティアに集まってもらうためには、学生自身が学生に声をかける事が最も有効です。
--------------	--



<p>ボランティアをやりたい学生と直接つながる場が必要と感じました。</p> <p>2. 行政・企業のヒアリング結果から、学生の将来に役立つ経験としてボランティアに参加してもらうためには、学生自らが企画・参画するような「プロジェクト型ボランティア」が地域ボランティアで作られる必要があります。しかし、現在は人足的な募集が多く、また、参加方法も明確でない募集情報が多い状態です。受け入れ側への指導をしていただくことで、地域と学生が関われるボランティアを増やすことが出来ると考えます。</p> <p>3. 学生が地域のボランティアに参加するには、将来に役立つ経験をする必要があります。ほかにも、関市のボランティア活動に参加したことをカタチとして残すために、記念となるものもあると良いかと思えます。また、「しあわせ循環ポイント」制度を付与することで、学生が継続的に地域のボランティア活動に参加する意欲を高めるとともに地域での消費も促進されます。</p>
---

### VI 今後の展開

私たちが目指す姿は、学生と地域がお互いを必要とする場がある関市です。関市には、医療や福祉を専門として勉強する学生が多くいますが、授業や勉学で忙しい学生が多く、関市へ在学していても、地域とのかかわりを持つ学生は少ないままです。

将来に役立つ経験を培えるボランティア活動をきっかけに、学生と地域が結びつき、より関市の地域活動が活発になることを望みます。